

## 第 5 回学び喜び・ESD連続公開講座 概要報告

奈良教育大学 中澤 静男

- ◇開催日時 2022年12月9日(金) 19時~20時30分
- ◇会場 ESD・SDGsセンター多目的ホール
- ◇参加者数 会場(27名)、オンライン(40名)
- ◇内容

「手島流SDGsの授業に参加しよう」

講師：江東区立八名川小学校前校長 手島利夫 氏

### 1. どのような教育の中で育ってきたのだろうか

○問題を発見し、その問題を解決のために学ぶ：

問題発見・解決 主体的な学び

○対話的：納得解を探す・対話

・正解がある授業 基礎基本

・学級には「できるやつ」がいて、順位は変わりにくかった：

学力の観点だけで評価

アンケートより

エコに関する授業も先生から与えられた課題をこなすことが目的

エコに関する理解が深まったわけでもなかった



### 2. 主体的・対話的な学び

・昭和の時代(工業化・画一化・生産性・学力神話)までの学びと平成(IT革命、超グローバル化)からの学びは大きく違う

・平成10年公示学習指導要領：「ゆとりの中で生きる力を育む」：

・新しい時代の教育を作ろうとしていた

・OECDの学力調査(2006年でやや下がる)：学力低下批判

各教育委員会の方向性が「学力向上」に変更(昭和時代の学力に逆戻り)

→「IT化・グローバル化した世界で生きる力を育む」ことが大切

○主体的・対話的な学習過程とは

調べ学習：調べる→まとめる・実行する→伝え合う

重要なのは「学びに火をつける」こと

①問題に気付かせる、②火をつける、③テーマを決める

基本的な事実と感動的に出会う

学ぶ心に火をつける(疑問が生まれる)

家族へのインタビュー 消費者側

販売者へのインタビュー

学習問題を明確にする 疑問が生む手掛かりを提示する

SDGsの学びなら「自分も何かやりたくなった」

SDGsは危機の克服だ

この時間のテーマは「克服」だ

縄文時代は縄文海進 大型獣が少なくなり食料不足の時代に それを救ったのが土器

木の実の渋抜き 貝をゆでる、保存食にする、スープをつくる  
食料不足以外に克服してきたもの

・感染症、津波、地震、台風、紛争、

「〇〇克服物語」をつくる

「冬の寒さ克服物語」

・火を起こして暖をとる、服を重ね着する、他の人とくっつく、  
風よけの洞穴を探す

暖かいものを食べる、野獣の毛皮を身に付ける、

そのために木を集める、火打石を集める

→ 仲間の書いたストーリーを詠んでサインを集める

〇〇克服物語は誰のためになったのかな？

個人のしあわせにつながった？

みんなのしあわせにつながった？

今まであった世界をよりよいものに変える

出発点は「問題に気付く力」

この世界で克服にむけて取り組むべき課題は何だろう

それはSDGsの何番と関係があるかな

例えば

・エネルギーを再生可能にする ⑦

・食料生産を増やす ②

・温暖化を改善する ⑬

・ゴミの量を減らす ⑫

・生き物を大切に ⑭・⑮

・戦争をなくす ⑯

→ それをカードに貼りに行く



SDGs ⑭ 海のごみのことを書いたカードが多い ← つくる責任・使う責任

他にもあるよ サンゴ礁の白化 — 海の温暖化（海水温の上昇）

海水の酸性化、台風の強大化、魚の採りすぎ、絶滅危惧種

「子ども」に世界を変える力があるのか マララさん、坂口くり果さん、グretaさん

大事なことは

「問題に気付く力」そして「学び、判断し、取り組む力」それから、「人をも動かす、表現力・実践力」

個、グループワーク、全体交流の組み合わせ

学ぶための場をつくる

学びをつくるのは子ども自身